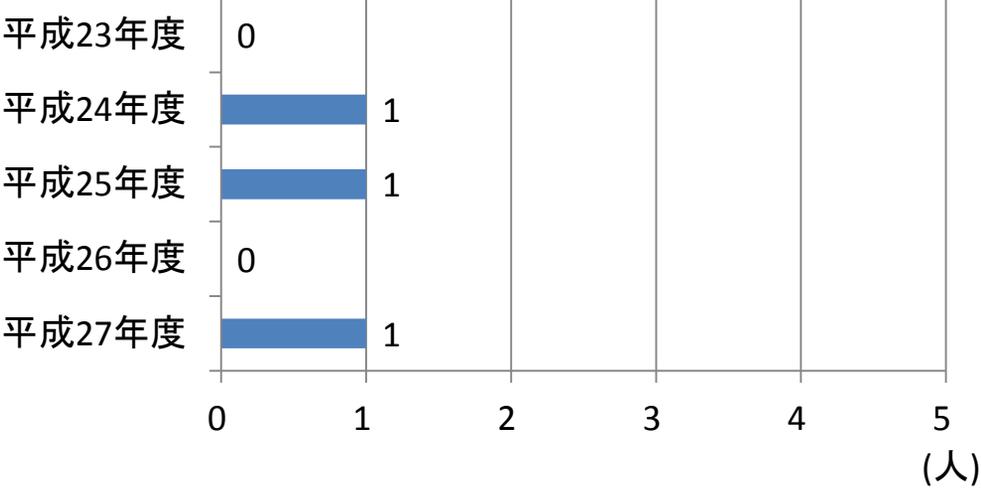


28 多剤耐性緑膿菌(MDRP)による院内感染症発生患者数

解説	<p>多剤耐性緑膿菌(MDRP)は一般家庭でも見られる毒素の弱い菌ですが、抵抗力が低下した患者に感染すると、重症肺炎など重篤な感染症を引き起こし死亡する場合があります。</p> <p>院内感染症は適切な介入により、かなりの程度で発症頻度を減じることが可能です。安全で良質な医療を提供する環境として、十分な感染対策を行っている点を評価します。</p>												
実績	 <table border="1"><thead><tr><th>年度</th><th>患者数 (人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成23年度</td><td>0</td></tr><tr><td>平成24年度</td><td>1</td></tr><tr><td>平成25年度</td><td>1</td></tr><tr><td>平成26年度</td><td>0</td></tr><tr><td>平成27年度</td><td>1</td></tr></tbody></table>	年度	患者数 (人)	平成23年度	0	平成24年度	1	平成25年度	1	平成26年度	0	平成27年度	1
年度	患者数 (人)												
平成23年度	0												
平成24年度	1												
平成25年度	1												
平成26年度	0												
平成27年度	1												
定義	<p>1年間の新規MDRP 発症患者数です。保菌者による持ち込み感染は除きます。入院三日目以降に発生したものを計上します。</p>												